様式Ｉ

Ｉ.難治性疾患克服研究の対象となっている１２３疾患について

主任研究者；久保惠嗣
疾　患　名；肺胞低換気症候群

１．　初代研究班発足から現在までの間の研究成果について（特定疾患の研究班が独自に解明・開発し、本研究事業として公表したもの。なお、原則他の研究事業等に依存していないもの。）

（１）原因究明について（画期的又は著しく成果のあったもの）

	時期　及び 班長名（当時）	内容	備考
1			
2			
3			

※他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

（２）発生機序の解明について（画期的又は著しく成果のあったもの）

	時期　及び 班長名（当時）	内容	備考
1			
2			
3			

※他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

（３）治療法（予防法を含む）の開発について

ア　<u>発症を予防し、効果があったもの</u>

	時期　及び 班長名（当時）	内容	備考
1			
2			
3			

※他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

イ　<u>完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの</u>

	時期　及び 班長名（当時）	内容	備考
1	栗山喬之	肺胞低換気症候群診断基準の作成 (平成 8 年度呼吸不全調査研究班報告書)	
2	栗山喬之	非侵襲的経鼻陽圧呼吸(NIPPV)の導入と睡眠中持続的酸素吸入の有用性の証明	
3			

※他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

ウ　<u>その他根本治療の開発についてもの</u>

	時期　及び 班長名（当時）	内容	備考
1	長野　準	薬剤(プロゲステロン製剤なども含む)による呼吸賦活療法	
2			
3			

※他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

２．「１」以外で、国内、国外を問わず、研究成果の現在の主な状況について

（１）原因究明について（画期的又は著しく成果のあったもの）

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

（２）発生機序の解明について（画期的又は著しく成果のあったもの）

	時期	内容	文献
1	1999 年	神経伝達物質であるオレキシンがナルコレプシーの発生に強く関与している。	Cell 98:437
2			
3			

（３）治療法（予防法を含む）の開発について

ア　<u>発症を予防し、効果があったもの</u>

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

イ　完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

ウ　その他根本治療の開発についてもの

	時期	内容	文献
1	2004 年	オレキシンやその周辺物質が、睡眠障害、時差ぼけ、不眠症の治療に重要な手がかりを提供する。	Proc Natl Acad Aci USA 30: 4649
2			
3			

３．現時点において、次の事項について残された主要な課題及び今後の研究スケジュールについて

（１）原因の解明について

	課　題	解決の可能性	今後の研究スケジュール
1	呼吸調節機序の解明	困難	脳科学の進歩を待つ
2			
3			

（２）発生機序の解明について

	課　題	解決の可能性	今後の研究スケジュール
1	中枢性呼吸調節に関する物質の同定	根本的な解決は困難	脳科学の進歩を待つ
2	平成18年‐19年度に全国疫学調査の施行（発生頻度、原因、病態，治療など）	病態については可能性あり	進行中
3			

（３）治療法（予防法を含む）の開発

	課　題	解決の可能性	今後の研究スケジュール
1	より侵襲が少なく、コンプライアンスの高いNIPPV機器の開発	可能性大	機器の進歩を待つ
2	薬物による呼吸中枢の賦活	可能性あり	臨床治験が必要
3	平成18年‐19年度に全国疫学調査の施行（発生頻度、原因、病態，治療など）	可能性あり	進行中

４．　重症化防止対策について

大多数の患者に対して外来通院によって症状のコントロールが可能な治療法（重症化防止のための治療法）の確立

	重症化防止のための治療法確立について解決すべき課題	５年以内に解決できる可能性	解決不可能な場合の理由	左記理由を解決していくスケジュール
1	NIPPVの使用を含む在宅呼吸管理	一部実施中		
2				
3				

4				
5				